

さいたま市PTA協議会 スローガン・ビジョン

～スローガン～

学び・つながり・支えあう さいたま市PTA

1. 学びを通じて育つ力 2. 声をつなぎ、未来を動かす 3. みんなで支え合う仕組みづくり

スローガンとビジョンについて



これからの活動のよりどころとなるよう、市内全体で共有できるビジョンを新たに策定しました。役員が入れ替わっても大切にしたい考え方や、市P協が目指す姿を言葉にしたものです。何かを決めつけるためのものではなく、迷ったときに立ち戻れる“共通の軸”として、活用していければと考えています。



詳しくは
こちらから

さいたま市PTA協議会組織図

常任理事

理事会



市P協の事業や活動の方向性について話し合い、大切なことを決める場です。市P協正副会長と各区の代表が参加しています。

事務局



広報情報委員会



市P協の活動や取り組みを、広報紙やホームページで伝えます

事業委員会



理事会で決まった事業について、準備や当日の運営を行います。

特別委員会



必要に応じて設置し、ICTなど特定のテーマについて検討します。

監事



各区連合会

さいたま市内 国公立小・中学校・特別支援学校PTA(144校)

令和7年度 教育委員会との交流会

開催日時:2025年10月28日
会場:浦和コミュニティセンター 多目的ホール

10月28日、浦和コミュニティセンターにて、さいたま市PTA協議会主催による教育委員会との交流会が開催されました。会場には約100名の教育委員会職員やPTA会長らが集まり、12のグループに分かれて活発な意見交換が行われました。

開会后、さいたま市PTA協議会の和田会長の挨拶に続き、竹居教育長から、さいたま市が独自に進める部活動の地域展開「まちクラブ」構想について説明がありました。週末の部活動を地域と協働で運営し、教職員の負担軽減と地域との連携強化を図る取組で、現在は市内8校でモデル実証が進められているとのこと。

その後は各テーブルに分かれてフリーディスカッションを



実施しました。私のグループでは、発掘体験ができる学校の事例をはじめ、防犯・安全対策や新興住宅地での児童急増問題など、多岐にわたるテーマが話し合われました。中でも印象的だったのは、保護者・地域・学校の間で課題認識に差が生じやすい点です。そのギャップを埋めるため、学校運営協議会を積極的に活用してほしいという意見が出されました。

また、学校の魅力向上の取組として、英語教育を打ち出したことで児童数増加につながった事例も紹介されました。今回の交流会は、子どもたちのより良い学びの環境を考える貴重な機会となりました。



ちょっとしたぞいてみませんか?
わたしたちにできること

PTAハンドブック
を刊行しました!

ダウンロードはこちらから



ハンドブックは、中学3年生まで保管をお願いします。

さいたま市PTA協議会

「児童・生徒ワイド補償制度(こども総合保険)」

- 第一次締切日: 3月27日 補償期間 2026年4月1日~2027年4月1日
- 第二次締切日: 4月21日 補償期間 2026年4月25日~2027年4月1日

本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご加入に際しては重要事項説明書をよくお読みください。不明な点等がある場合には代理店までお問い合わせください。

埼玉県自転車条例
さいたま市自転車条例
に対応しています!

団体割引等
適用により
保険料が割安!

自転車事故等による損害賠償責任も
無制限で補償

※ご家族全員が対象 ※国外は3億円まで補償となります。

示談交渉サービス*付き!

*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母親に約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)

ケガの補償
24時間補償で安心!

- ◆ 学校内でのケガはもちろん、休日も含め24時間ケガを補償!
- ◆ 地震等によるケガも補償!
- ◆ 細菌性食中毒、ウイルス性食中毒や熱中症による死亡・後遺障害・入院・手術・通院も補償!

プランによって補償項目が異なる場合がありますので、詳しくはパンフレットをご確認ください。

取扱代理店・扱者

AIGパートナーズ株式会社
さいたま支店

〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL 0120-991-341(通話料無料)
(受付時間:9:00~17:00 土、日、祝日、年末年始を除く)

〈加入依頼書申込みの募集締切日〉

第一次締切日: 3月27日 投函締切
補償期間 2026年4月1日~2027年4月1日

第二次締切日: 4月21日 投函締切
補償期間 2026年4月25日~2027年4月1日

詳しくはパンフレット等をご確認いただくか、取扱代理店・扱者までお問い合わせください。

〈引受保険会社〉

〔幹事会社〕 **AIG損害保険株式会社**

担当支店: 埼玉支店

〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL:048-641-4050

〔非幹事会社〕 東京海上日動火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

西 NISHI 区の色 : あお
 →川がたくさんあるから
 区の花 : アジサイ
 区の推し : 自然豊か、荒川沿いのレジャースポット

【子どもたちの学びと成長を支える2つの取り組み】

西区連合会では、子どもたちが学校や地域の中でのびのびと成長できるよう、さまざまな活動を行っています。ここでは、その中から「夏休み作品展」と「中学生スポーツ大会」をご紹介します。

【夏休み作品展】

西区連合会が実施する夏休み作品展では、工作・図画・書道の三部門に、子どもたちが夏の思い出や感動を自由な発想で表現した作品が集まりました。力作の中から



ら各賞が選ばれ、作品を通じて子どもたちの感じた世界や心の成長を共有できる場となりました。



【中学生スポーツ大会】

中学生スポーツ大会では、仲間と協力し相手を尊重しながら、全力で競技に挑む姿が見られました。勝敗だけでなく、努力することや連帯の大切さを学ぶ貴重な機会となり、学校・地域・家庭の連携のもと、子どもたちの成長を支える行事となっています。



桜 SAKURA 区の色 : さくら色
 →区の名前にふさわしく、サクラソウの自生地もあるから
 区の花 : サクラソウ
 区の推し : 秋ヶ瀬公園・埼玉大学がある文教エリア

【田島中学校50周年式典】

令和7年度は、田島中学校が創立50周年を迎え、さいたま市文化センターで式典が行われました。



同日に合唱コンクールもあり、生徒たちの歌声により華やかな、思い出に残るお祝いになりました。

【神田小学校オータムフェスタ】

PTA主催のオータムフェスタでは、子どもたちが思い思いの仮装で参加し、会場は笑顔とにぎわいに包まれました。謎解きイベントでは、



友だちと協力しながら楽しそうに挑戦する姿が見られ、秋の楽しい思い出となりました。

【第2回みんなの防災まつり】

桜区連と地元NPOとの共催で開催された「第2回 みんなの防災まつり」では、中学生が炊き出しボランティアとして大活躍しました。火起こしからカレー作り、配膳までを一つひとつ丁寧にやり、声を掛け合いながら協力する姿がとても頼もしく感じられました。

実際の防災を想定した活動を体験することで、中学生自身の防災意識も高まり、地域にとって心強い存在であることを実感する機会となりました。



北 KITA 区の色 : ふかみどり
 →盆栽のまちとして有名だから
 区の花 : 菜の花
 区の推し : 盆栽村が有名

【七夕の竹を再利用したSDGsワークショップ】
 ——親子でつくる「館岩へ届ける竹串づくり」——

8月24日、市民の森・見沼グリーンセンター多目的ホールにて、さいたま市PTA協議会北区連合会主催の「親子で竹串を作ろう!ワークショップ」が開催されました。本事業は、日進七夕まつりで使用した竹を再利用し、5年生が自然教室で訪れる館岩自然の家へ、イワナの焼き串として届けることを目的としています。

当日は小学生と保護者合わせて50人、中学生ボランティア18人が参加。竹を切り、割り、削



る作業を親子で協力して行い、会場は終始あたたかな雰囲気になりました。地域が連携し、SDGsや循環型社会への理解を深める貴重な機会となりました。



中央 CHUO 区の色 : パラ色
 →バラの花のまちとして有名だから
 区の花 : バラ
 区の推し : さいたまスーパーアリーナ・けやきひろば

【八王子中学校創立40周年記念式典】

10月24日、さいたま市中央区芸術劇場で八王子中学校の創立40周年記念式典が行われました。生徒会が10年の歩みを紹介し、実行委員会は校歌復活などの取り組みを発表。最後はPTAや教職員、保護者、生徒が合唱し、会場は温かな感動に包まれました。



【下小万博2025】

11月8日、下落合小学校でPTA主催の「下小万博2025」が開催され、校庭には子ども会のパビリオンが並び

大盛況でした。体育館では車椅子体験や高齢者体験が人気を集め、朗読劇「ブレーメンの音楽隊」は生演奏付きの本格公演に子どもたちが目を輝かせていました。



【与野七福神めぐりスタンプラリー】

12月21日、中央区PTA連合会が「与野七福神めぐりスタンプラリー」を開催しました。約30名の中学生ボランティアも参加し、親子連れでにぎわう温かな催しになりました。寺社では差し入れをいただいたり七福神覚え選手権などの交流も生まれ、地域と子どもたちがつながる貴重な一日となりました。



見沼 MINUMA 区の色 : そらいろ
 →自然が豊かで澄んだ空が広がっているから
 区の花 : クマガイソウ
 区の推し : 首都圏最大級の田園風景、見沼たんぼ

【キラキラBUBBLE&花火ナイト】

10月18日、大砂土東小でPTA主催の「思い出彩るキラキラBUBBLE & 花火ナイト」が開かれました。シャボン玉と花火が夜の校庭を彩り、子どもたちは「さみしいけれど新しい学校が楽しみ」と笑顔を見せました。保護者からも「最後に素敵な思い出をありがとう」と感謝の声が寄せられ、温かな門出の夜となりました。



【ななさと親子フェスティバル】

10月19日、蓮沼小学校協の山崎グラウンドで「第15回ななさと親子フェスティバル」が開催されました。自治会連合会や育成会、社協、近隣校PTAなど地域が協力し、蓮沼小金管バンドの演奏や体操演技、模擬店、体験ブースがにぎわいました。中学生ボランティアも活躍し、「毎年楽しみにしています」との声が寄せられる、温かな地域イベントとなりました。



岩槻 IWATSUKI
 区の色 : やまぶき色
 →やまぶきの花にまつわる伝説があるから
 区の花 : やまぶき
 区の推し : 人形のまち(伝統工芸)、城下町の雰囲気

かしわっ子フェスティバル 柏崎小学校

1月17日、岩槻区柏崎小学校にて第3回かしわっ子フェスティバルが開催されました。
 今回は子どもたちが主体となるフェスティバルとなり小学校、中学校、高校、大学生の幅広い子どもスタッフが中心となり運営されました。
 フィナーレには毎年恒例花火が打ち上げられ迫力ある花火に目を輝かせながら皆様楽しんでいました。



大宮 OMIYA
 区の色 : オレンジ
 →大宮アルディージャのチームカラーだから
 区の花 : さくら
 区の推し : 氷川神社・鉄道博物館が有名

【2025大宮区民ふれあいフェア出展】

10月25日に開催された「2025大宮区民ふれあいフェア」にPTA大宮区連合会として参加しました。子どもの虐待防止を呼びかけるオレンジリボン運動の募金活動と、射的のブースを出展しました。当日は、あいにくの雨にもかかわらず300名以上の来場があり、小中学生から地元の議員や清水さいたま市長まで幅広い世代の方々が立ち寄っていただきました。



【竹居教育長を囲む会】

11月5日、竹居教育長を囲む会を開催し、教育委員会や市内PTA会長ら19名が参加しました。家庭教育・学校教育・社会教育をテーマにグループワークを行い、実績や課題感を共有しました。その後の教育長の講話では「家庭教育が基盤の根っこでしたら、PTAはその根っこに光を充てる存在なのではないか?」という話が印象に残りました。PTAの存在意義を再認識した時間となりました。



祝 優良PTA 文部科学大臣表彰受賞 西浦和小学校PTA 大久保東小学校PTA

ストップいじめ!子どもサミット 主催 さいたま市教育委員会 開催日時: 2025年7月30日 会場: さいたま市立大宮国際中等教育学校

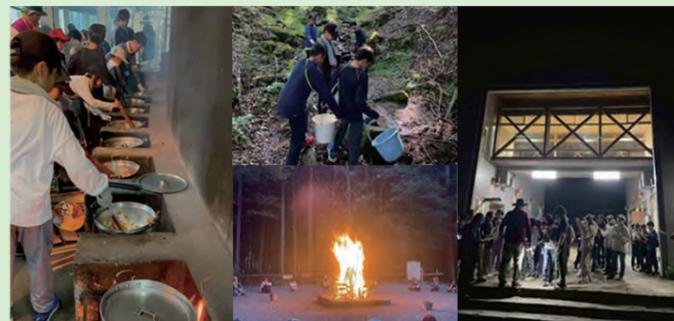
突然ですがクイズです。
 「算数(数学)の問題が解けず、鉛筆がなかなか進まないEさんに対して、問題を解き終わっていたFさんは、解き方を教えた」これはいじめだと思いますか?
 ここまでの内容であれば、一見Fさんは答えの分からない子に親切に教えてあげたようにも思えます。
 でも、この話には続きがあり、「あと少しで問題を自分で解くことができそうだったEさんは泣き出してしまった」
 こうなると、これはいじめでしょうか?それともいじめではないのでしょうか?
 7月30日、さいたま市教育委員会主催で「ストップいじめ!子どもサミット」が開催されました。市内の小中学生を中心に、教員や保護者、地域住民など約700名が一堂に会し、いじめについて真剣に、そして少しユーモアも交えながら考える一日となりました。参加者はまず45のグループに分かれて、冒頭のような事例を含む3つのケースをもとに、「これはいじめ?それとも...?」というテーマでグループディスカッションを行いました。冒頭のクイズの際、続きが出る前のディスカッショ

ンで小学生から「でもこれってEさんが教えられて嬉しかったのかどうか分からないよね」と鋭い一言。いじめはやられた側がどう感じたかで決まる。その事に気づかされた瞬間でした。続いては、各校でのいじめ防止の取り組みや今後のアイデアを共有。さらに地域ごとの10グループで発表が行われ、各グループ、ジェスチャーを交えたり様々な趣向を凝らしたプレゼンを披露しました。
 最後に、日本大学の藤平敦教授による講演。「加害者は、実は傍観者を見ていじめをする」という言葉には、はっとしました。「周囲が笑えばいじめは続く。笑わない、いじめを良しとしないような空気作りが大切だ」と語る姿に、大人も子どもも、真剣に耳を傾けていました。
 子どもたちとともに、時に楽しく、時に真剣にいじめについて向き合った一日。その中、いじめを防ぐヒントがいくつも詰まっていた。



夏休み!ネイチャーラボ@名栗げんきプラザ 開催日時: 2025年8月17日~19日 場所: 名栗げんきプラザ

夏休みネイチャーラボには市内7区から小中学生45名が参加し、名栗げんきプラザで2泊3日の自然体験を行いました。フォトオリエンテーリングや災害時チャレンジ、野外炊事、キャンプファイア、クラフトなど多彩な活動を通して、協力する力や自分の意見を伝える経験を積むことができました。班での話し合いや失敗から学ぶ場面も多く、子どもたちの成長が随所に見られました。大きなけがもなく無事に終了し、保護者の皆さまにも本活動の意義をご理解いただけていることを実感しました。



浦和 URAWA
 区の色 : あか
 →浦和レッズのチームカラーだから
 区の花 : ニチニチソウ
 区の推し : 県庁所在地・文教都市(名門公立高校多い)

【さいたま市PTA協議会浦和区連合会主催セミナー開催報告】 ~AIで広がるPTAの可能性~ラクしてスマートに!~

11月29日、さいたま市PTA協議会浦和区連合会主催のAI活用セミナーが開催されました。
 【講師: 高橋 哲茂 氏 プロフィール】
 ・全国国立大学附属学校教育後援会 連絡委員会専門委員(生成AIコンサルティング担当)
 ・現職: 食品メーカーのシステム部門・AI普及責任者兼任。
 ■ 2大AIでPTAと生活を自動化!
 「Google Gemini」と、資料の要約・解説に強い「Notebook LM」を駆使した時短術が紹介されました。PTA: 規約や資料を瞬時に要約。解説動画まで自動作成し、説明会もスマートに

教育: 宿題を「RPG風ゲーム」に変えて、お子様が自ら学ぶ仕組み作り
 生活: 冷蔵庫の写真から献立を提案。冠婚葬祭のスピーチも「秒」で作成
 ■ 使用上のヒント
 AIは嘘をつく(ハルシネーション)ことがあるため、最終確認は必ず人間の目で行うこと、またお子様の使いすぎには注意が必要です。
 当日は多くのお母様や熱心な子どもたちが参加し、実務的な質問が飛び交う熱気あふれる会となりました。まずは「PTAでGoogleアカウントを作り、皆で触ってみる」ことから始めましょう!



南 MINAMI
 区の色 : レモン色
 →区の若々しいイメージに合っているから
 区の花 : ひまわり
 区の推し : 子育て・教育環境が抜群、自然と緑が豊富

【国立大学附属学校園の連携】

埼玉大学教育学部附属中学校PTAより、「全附連」と「関附連」の活動および今年度の研修会についてご紹介いたします。全国には251の国立大学附属学校園があり、教職員組織の「全国国立大学附属学校連盟」と、PTA組織の「全国国立大学附属学校PTA連合会」が連携し、附属学校の教育活動を支えています。これらを総称して「全附連」と呼び、公教育における附属学校の役割向上を目指しています。また、関東地区を担当する「関附連」では毎年研修会が開催され、本校からも教員・PTA役員が参加しています。
 9月26・27日にはリーガロイヤルホテル東京で第16回全附P連全国大会が行われ、「子どもたちとこの国の未来のために」をテーマに講演や分科会が実施されました。児童文

学作家・くすのきしげのり氏は、物語が子どもの想像力や共感性を育む意義を語り、大人が子どもの「環境」として果たす役割を示しました。学習環境デザイナー・美馬のゆり氏からは、AI時代に求められる学びとして、問いを立て対話を通じて価値を共創する姿勢の重要性が示されました。
 さらに10月31日には茨城大学附属学校園で関附連茨城大会が開催され、公開授業やPTA実践活動協議が行われました。東京大学附属中等教育学校、東京学芸大学附属世田谷中学校の報告をもとに課題共有が進み、文部科学省・若林徹氏の講話では、附属学校の役割と保護者の関わり方について理解を深める機会となりました。



さいたま市PTA協議会 役員セミナー

開催日時:2025年9月16日
会場:RaiBoCホール 小ホール

9月16日、さいたま市PTA協議会主催のPTA役員向けセミナーが開催されました。PTA活動の意義や広報の工夫、地域とのつながりまで、幅広いテーマで事例が共有されました。

最初に登壇したのは、さいたま市PTA協議会の和田洋樹会長。「PTAについて」と題し、自身の経験を交えて、PTAの役割が時代とともに変化してきたことを語りました。「結局はPTAはボランティア。役員自身も無理なら無理と言える雰囲気づくりが大切」という言葉が印象に残りました。

続いて、さいたま市教育委員会 生涯学習振興課から「コミュニティ・スクールについて」の講演がありました。学校、保護者、地域が協力して子どもを育てる仕組みや具体的な事例が紹介され、コミュニティ・スクールとして協働する意義を改めて実感できました。

事例発表では、まず与野東中学校PTAが登場。「PTAのスタイルに合わせた広報の形」と題し、広報コンクール最優秀賞を受賞した活動内容を紹介しました。特に誌面の写真の切り取り方が印象的で、「好きで作っている」という思いが伝わる素敵な広報誌でした。次に、大宮南小学校PTAがWEB部門最優秀賞の取り組みを発表。紙からWEBへの切り替えの工夫や成功事例を共有し、特に登校時の混雑やマナー改善のために制作した動画が注目を集めました。どちらの事例も、自分たちらしさを大切に、楽しみながら活動している様子が伝わりました。

最後に、千葉県PTA連絡協議会前会長の濱詰大介さんが特別講演を行いました。「八街の通学路でおこったトラック事

故を経て～PTAの存在意義とスケールメリット」と題し、事故後わずか2か月でガードレール設置が実現した経緯を紹介。「PTAの存在意義はもしもの時、困った時に助けになる組織程度で良い」という言葉は、深く響きました。

今回のセミナーを通じて共通して感じられたのは、「活動を楽しむこと」の大切さです。堅苦しく考えるのではなく、気楽に取り組むことで長く続けられる——そんな前向きな気づきを得られる時間となりました。



令和7年度さいたま市PTA協議会 祝賀懇親会

開催日時:2025年10月3日
会場:ステラ・デル・アンジェロ

10月3日、北与野駅すぐ近くのステラ・デル・アンジェロに於いて、令和7年度さいたま市PTA協議会 祝賀懇親会を開催いたしました。さいたま市の優良PTAを受賞された皆様と広報コンクールで入賞された皆様をお招きして、その功績を讃えらるとともに日頃のPTA活動に対する情報交換や悩み事の相談などでもできる場を提供しようと去年より市P協正副会長主催で開催しておりますが、今年も31名の受賞者にご参加いただき大盛況のうちに終わりました。

参加した皆様にお話を伺ったところ、「皆さんエネルギーがすごかった」「他校が羨ましいなと思う情報を聞いたり、逆にうちの学校自慢ができた」「閉会の挨拶に感動した。褒められるためにPTA活動をしているのではないが、日々頑張っているのが今日のように労いの機会をいただけたことが嬉しい」などのご感想をいただきました。また明日からのPTA活動への糧にさせていただきますと幸いです。受賞された皆様、改めておめでとうございます。



第80回 指定都市PTA情報交換会千葉市大会

開催日時:2025年9月11日・12日
会場:千葉市生涯学習センター

9月11、12日に千葉市にて開催された指定都市PTA情報交換会に正副会長6名と事務局長が参加してまいりました。

第一分科会(組織・運営)持続可能なPTA組織と運営

PTA加入率低下や活動硬直化への対応をテーマに、まずは、千葉市P連を脱退した学校の元校長先生からの基調講演、その後、千葉市P連の取組が共有されました。千葉市P連は動画やハンドブック作成、キャッシュレス集金導入など負担軽減に努めていますが、退会校増が課題です。講演では「危機感を持ち、変革に挑戦する柔軟さ」が提言されました。分科会では、可視的で楽しい事業やSNS発信、役職依存を下げた運営、外部連携が有効など、選ばれるPTAへの組織変革が求められていることを参加者で共有しました。

第二分科会(研修活動・成人教育)今求められているPTA研修

基調講演では、「組織における研修課題」についてご講演いただきました。研修には視野を広げる学びと専門的に深める学びの両立が大切であること、また「共に学ぶ」という姿勢が自身を理解する基盤となることが強調されました。さらに、教職員と保護者が連携し、互いに学び合う必要性も示されました。講演では「Well-being ウェルビーイングを育む組織経営」についても触れられ、PTA活動そのものが子どもや地域の幸せにつながる実践であることを再認識しました。グループ討議では、担い手不足や活動の温度差といった課題を共有し、子どもと保護者が一緒に参加できる体験型イベントや地域との連携などの活性化策が提案されました。

第三分科会(地域連携)地域とPTAができる不登校対応

地域とPTAの不登校対応をテーマに、基調提案・事例発表・グループセッションが行われ、学校・家庭・地域の役割が議論されました。基調提案では、多様な学びを認める法整備や課題、千葉市の支援策が紹介されました。事例発表では、保護者の働きかけが運用改善につながった例や、地域の登校見守り活動が子どもの異変発見に繋がった事例が紹介されました。グループセッションでは、子どもの居場所づくり、固定観念の見直し、学校、家庭、地域の意識改革など多くの提案が共有されました。講評では、子どもの自主性を尊重する社会づくりと、PTAがネットワークの要となることが期待されました。全体の議論を通じて学校だけでなく、家庭・地域と共に子どもを支える社会づくりの重要性が再確認されました。

第四分科会(広報・情報活動)PTAにおける広報とICT

PTAの広報・情報活動をテーマに、千葉市PTA連絡協議会のICT活用事例や各都市の先進的取り組みが紹介されました。千葉市では、情報発信動画や役員向け資料、キャッシュレス集金代行システムが実施され、単会の集金負担軽減と協議会加入のメリットを明確化。一方、契約書作成や返金作業、手数料負担などの課題も指摘されました。GoogleフォームやAIによる意見集約、SNS「X」とAIツール「Grok」を活用し

た効率的整理の実演も行われました。静岡市・北九州市・相模原市の事例では、提言書や回答のウェブ公開、独自クラウド構築、AI活用など多様な取り組みが報告されました。今後は、ITスキル格差の是正、意見提出ルートの整備、協議会加入メリットの実感化が課題であると感じています。

全体会

学校教育と不登校支援をつなぐ

～元校長が語る子どもたちへの支援

NPO法人千葉子ども家庭支援センター 副理事長 宇田英弘氏
学校に行けない子どもたちの居場所としてフリースクールがありますが、そもそもフリースクールとは「不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設」で設置の基準はなく公的な認可もいらず誰でも開設できるため、個人に合った場所を選ぶ必要があります。

フリースクール選びのポイントとしては個々にあった学習活動を行っているか

- ・在籍校との連携が十分できているか
- ・学習指導の専門家と心理相談の専門家ががいるか
- ・将来への自立を目指せる進路相談をしているか
- ・施設や環境など子どもの安全性が保たれているか

などがあげられます。不登校の子どもは通信制高校にしか行けないと思われがちですが、フリースクールの卒業生は半数以上が全日制に進んでいるデータもあり、支援の大切さが数字に出ています。

後半は千葉市教育委員会 学校教育部 教育支援課 高橋泰雄課長と、NPO法人 千葉子ども家庭支援センター 杉本景子理事長を交えて、事前アンケートの結果に対するディスカッションがあり、不登校はいつ誰の身に起こるかはわからず誰もが当事者であること、また普通という呪縛に囚われてはいけないと何度も言われていました。我々保護者も普通でなくてはならないという概念にとらわれず、その子どもにあった支援を柔軟に受け入れる必要があると感じました。

